

募 集 要 項

氏 名：シン ハヨン	研究室：第4研究室棟 305 研究室
専攻分野：組織行動論（マイクロ組織論）	
演習テーマ：人と組織	E-mail：hyshin@cc.kyoto-su.ac.jp

演習内容・主なテキスト

この演習では、組織行動論（マイクロ組織論）の知見を基本的な題材として、物事を論理的に考え、相手にわかりやすく伝える練習を行います。なお、組織行動論とは、社会科学や行動科学の知見を援用して、「組織の中における人々の行動」をよりよく理解し、説明することを目的としている分野です。

組織行動論の問いは、私たち自身にも直結する問いといえます。すべての組織は、複数の多様な個人が集まることによって成り立っています。そして私たちは多様な組織に囲まれ、普段から大なり小なりの集団や組織に属しています。皆さん自身も、今後社会に出ていく中で、企業に就職することや、自分で起業することもありうるでしょう。このときに、直面しうる疑問について、組織行動論の知見はひとつのヒントになりえます。

例えば、組織行動論の領域で主に取り上げられる問いとして次のようなものが挙げられます。

- 私たちはどういうときに「やる気」や「やりがい」を抱くのか？
- なぜ、好きなことや楽しいことだと頑張れるのだろうか？嫌いなことを頑張るためにはどうすればよいか？
- 個人の性格差によって、現れる行動に差は出るのだろうか？
- どういうリーダーのもとであれば、メンバーの意欲が高まるだろうか？
- チームがうまく機能するにはどうすればよいか？
- メンバーひとりひとりが組織に貢献しようと頑張るのはどういうときだろうか？

これらの問いのうちのいくつかは、すでに実際に経験したこともあるかもしれません。自分自身のやる気をどのようにマネジメントしていけばよいか？といったテーマもまた、組織行動論における主要な問いのひとつです。組織行動論の理論を学び、実際の現象（たとえば、自分自身）に適用してみる経験を積むことによって、これらの疑問に自分なりの答えを見出していききっかけとして活かしてほしいと思います。

以下は現時点での計画ですが、皆さんの希望や関心事をふまえて、より学びがいのあるもの、熱意をもって打ち込めるもの、やりがいを感じられるものにつくりあげていけると良いなと思っています。組織行動論はあくまでも「考える」ための材料です。皆さんが突き詰めていきたい内容を共有し、当事者意識（ownership）をもってゼミに関わりたい学生の皆さんを歓迎します。

ただし、材料としての「組織行動論」を使うためにも、理論を習得するための勉強は「必須」です。ゼミ時間だけでなく、必要に応じてゼミ活動外での時間も活用して学習に取り組むことを強く求めます。

<演習1> および <演習2>

知識は皆さんの武器になります。演習1および2では、テキスト輪読やケース分析を通じて、本ゼミの主要な道具となる組織行動論や人的資源管理論の基礎知識を学びます。座学（講義）で基礎知識がついていることが望ましいですが、必須ではありません。ゼミでは学生主体の発表やディスカッションを通じて一から学んでいく予定です。

この期間を通じて、少人数ディスカッションやクラスディスカッション、プレゼンテーションなどの練習を積んでもらい、相手にわかりやすく論理的に伝えるスキルを磨く作業も並行していきます。

使用予定のテキストは下記のとおりですが、より相応しい図書があった場合は変更の可能性があります。

（テキスト）『組織行動—組織の中の人間行動を探る』鈴木竜太・服部泰宏著，有斐閣ストゥディア。

<演習3>および<演習4>

演習1および2の経験をもとに、より専門的なテキストの輪読と、卒業研究の準備に取り組んでもらいます。より具体的には、テキストの輪読を通して理論の理解を深め、自分たちで問いをたてる訓練をし、これらの問いにもとづいてケース分析や企業分析、文献調査を行ったりしていくフェーズです。定量的分析手法についても、この段階で学んでいきます。座学と実践が中心となります。

演習1~2が今後の学習のための基礎を身に着ける期間であるとすれば、演習3~4は本格的なインプットとアウトプットの往復を行う期間となります。コミュニケーション能力という単語を思い浮かべるとき、私たちは往々にして口頭でのコミュニケーションばかりをイメージしがちですが、「文章」を通したコミュニケーションをしなくてはいけない場面は多く存在します。論理的で分かりやすい文章を書くために必要なことを学ぶためにも、たくさん読み、書いていきましょう。

基本的にシンゼミでは、演習4に参加する時点で卒業研究に取り組むものとして捉えます。

輪読対象となるテキスト例としては、下記の通りです。より相応しい図書があった場合は変更の可能性があります。現時点では、こういった内容を扱うのかに関する参考程度にしてください。また、学生の関心や希望、進捗状況に応じて柔軟に対応する予定です。輪読を希望するテキストの提案も歓迎します。

・『恐れのない組織』，エイミー・エドモンドソン著，英治出版。

・『人を伸ばすカー内発と自律のすすめ』エドワード・デシ，リチャード・フラスト著，新曜社。

・『人を助けるとはどういうことか——本当の「協力関係」をつくる7つの原則』エドガー・シャイン著，英治出版。

・『心を測る—現代の心理測定における諸問題』デニー・ボースブーム著，金子書房。

・『組織行動論の考え方・使い方：良質のエビデンスを手にするために』服部泰宏著，有斐閣。

その他

<演習5・6>

演習1から4までの集大成として、卒業研究などを通じて皆さんの研究をひとつの形に完成させていく期間とします。最後に、卒業研究の発表会を行う予定です。なお、卒業研究（卒業論文）を執筆するかどうかの意思決定は、春学期開始時点で確定してもらうこととなります。

教員からの要望

チャレンジングな課題に取り組んでみた、何かを深く理解するためにすすんで試行錯誤を行った、自分の限界を自身の努力と周りの協力で突破した、といった経験や、それを通して感じる達成感は、わたしたちの行動を大きく変化させる強い原動力になります。このゼミでの活動を通して、「昨日の自分よりも、一歩前に進む」、つまり成長することの楽しさを感じてほしいと思っています。

そのためにも、受け身での知識吸収ではなく、能動的かつ主体的に学び、調べ、考え、伝えられる（そうしようと取り組める）人を求めています。教員は、皆さんに指示を出したり課題を課したりするマネージャーというよりも、あくまでもアドバイザーやサポーターという立ち位置です。皆さんのさらなる学びのために、ゼミ時間を最大限活用するつもりでいらしてください。なお、ゼミ時には各自PC環境を持参できると望ましいです。

加えて、理論を習得するための勉強は大前提ですので、避けて通れません。シンゼミでのゼミ課題や活動は決して軽いものではありません。ゼミ時間だけでなく、必要に応じてゼミ活動外での時間も活用して学習に取り組むことが求められます。

履修希望科目

組織行動論と関連する科目（経営組織論ミクロ・人材マネジメントなど）や隣接領域の科目（産業組織心理学・社会心理学入門など）を受講しておくことによって、ゼミ内容との大きなシナジーが期待されます。関連科目はなるべく受講するとよいでしょう。

教員の自己紹介

韓国ソウル出身。組織の中で「誰かの役に立ちたい」という気持ちで頑張っている人を支援し、彼らの努力が報われるような組織づくりや、負担を軽減する仕組みづくりに貢献したい。そんな理由から研究の道に進みました。今は、主にモチベーション研究を専門にしています。が、やる気管理の難しさと奥深さを痛感する毎日です。

教員のインタビュー動画（舟津ゼミの学生が経営学部CM作成の一環として撮影・編集してくれたものです）が京都産業大学経営学部チャンネルに載っています。担当教員の（動いている）様子に興味がある方は、下記のリンクからご覧ください。



フルバージョン【最優秀 監督・脚本賞受賞】これを見れば
京産がちょっとだけ分かるかも！？

リアルな経営学部ちゃんねる・36 回視聴

学生チーム「大三元」学生が、令和4年度「新任教員」にインタビューしました。新任らしい視点で、京都産業大学の魅力を伺うことができました...

<https://youtu.be/BIPaPYSQa0o>

ゼミ生からの紹介

本学 HP に、ゼミ紹介ページをつくっていただきました。ゼミ生（2期生）の声も載っています。関心のある方は、下記のリンクからご覧ください。

https://www.kyoto-su.ac.jp/faculty/bu/pickup_seminar.html